

新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設基本計画策定委員会（第1回）
議事要録

日時	平成22年3月26日（金）午後6時半～午後9時
場所	クリーンセンター3F 見学者ホール
出席	田村和寿委員（委員長）、大江宏委員（副委員長）、安井龍治委員、越智征夫委員、狩野耕一郎委員、早川峻委員、高橋健一委員、石黒愛子委員、新垣俊彦委員、橘弘之委員、金子和雄委員、上原文夫委員、小酒井恵詞委員、佐々木保英委員、渡部敏夫委員、事務局（木村浩クリーンセンター所長、和地稔課長補佐他）、アドバイザー（社団法人全国都市清掃会議 林田耕作課長）、コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）
欠席	荒井喜久雄委員 傍聴（一般）3名、（記者）1名

1. 基本計画策定委員会、施設・周辺整備協議会の議論の進め方

事務局より、A3版資料「基本計画策定委員会の基本コンセプト」について説明。

- ・ **事務局** 前回委嘱式の際に出した大まかなスケジュールは、決めなくてはならない事項を配置しただけのものであり、コンセプトが無いというご指摘もいただいた。それを踏まえ、今回の資料をまとめさせていただいた。

昨年6月までやっていた（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会において、整備用地の問題も含めて5つの提言いただいたものが、今回の委員会においてもベースとなっている。この5つの提言に対して市として基本的な考え方を発表し、さらに基本的な考え方における課題に市・委員会・協議会がどのように取組むかを記載している。

市の役割としては、広報活動、ごみ減量・資源化、将来のごみ処理の在り方が挙げられる。委員会の役割としては、施設の基本仕様の決定、周辺環境影響調査計画書の作成、安全管理を含めた事業手法の検討が挙げられる。協議会の役割は、施設整備、エリア整備、周辺整備のイメージ化が挙げられる。

この委員会の役割に基づき、本日議論いただきたい基本コンセプト（案）として、「市民協働による安全で安心な施設計画」「環境にやさしい施設計画」「適正なコストコントロールによる確実な運転管理計画」「まちに溶け込む次世代型市民施設」として、イメージ転換を図り、周辺地域のまちづくりの核とする」の4つを提案させていただく。

委員会のアウトプットとしては、協議会とも擦りあわせを行ったうえで、上記4つを盛り込んだ計画書を作ることである。委員会が装置の中身を決めた段階で協議会との第1回合同意見交換会を開催する。また、配置・動線計画の検討をした段階で、協議会の方のランドデザインとの擦りあわせを行う第2回合同意見交換会を開催する。

事業手法等を検討した段階で、協議会の運営協議方式等との擦り合わせを行う第3回合同意見交換会を開催する。具体的には、4ページにスケジュールを記載している。ただし、進捗状況によってスケジュールは随時変更していくと考えている。

- ・ **委員長** 非常にたくさんの論点があると思っている。お菓子で言えば饅頭の餡にあたる部分が、施設や装置の話であり、その外側にまちづくり論、さらにその外側に環境論みたいなものがあると考えている。それらを全部まとめると大変な世界ができると考えている。

一方で、一般に市民参加論というのは、まちづくり論において議論されることが多いが、今回武蔵野市では専門技術の問題についても市民参加として担わなければならない。そのためにも我々委員会は、事務局やコンサルタントの情報、知識、説明に負けないことが議論するうえで重要である。

本日の説明は、非常に明快であったためにこのまま終わってしまうのではないかと心配している。ぜひ、豊かな議論を進めていただきたい。

- ・ **委員** 市民一人一人が担うということは、ごみの減量化と資源化・分別に係ってくると思われるが、ごみ減量協議会でどんな内容で、どのような状況にあるのかが余り公にされていない。広報活動について、市民がどのような形で参加するのかを明確にする必要がある。また、様々な形で出てきているパブリックコメントについて、どう取り入れるかについてもこの委員会の重要な役割だと考えている。ごみ減量協議会とこの委員会が相互の理解をしながら、最終的に施設の規模を決めていければ良いと考えている。

分別においてプラスチックを燃やすのか資源化するのかといった問題についても、きちんとコンセプトに反映しないと後にボタンの掛け違いが発生してしまうのではないかと心配している。

- ・ **委員長** ごみ減量については、武蔵野市が実現すると記載しているが、これが間違いのない前提であるのかが非常に重要な問題である。
- ・ **委員** 市の思いだけでなく、それが市民一人ひとりに広報されていなければ、現実に伴ってこない。
- ・ **市委員** ごみ減量協議会では、市民を入れた会として、これまで2回の提言をいただいている。この4月から3期目となり、具体化を行い、ごみの減量をしていく。ごみの減量について、ご心配をいただくのは大変ありがたいが、減量協議会の情報を委員会の方に流すようにするので、委員会の方は安心して施設計画の検討に専念いただきたい。
- ・ **委員** ごみ減量協議会の資料はないので、皆に配布すべきである。
- ・ **市委員** 提言書を用意し配布する。
- ・ **委員長** そのあたりは、安心できるよう対応してほしい。
- ・ **委員** ごみ減量協議会について、やっていることは知っているが市民にあまり周知されていない。例えば行政回収などの収集の問題については、今後の議論のためにも知っておくべきである。

- ・ **委員長** シンボリックな言い方に留まっている部分もあるかも知れない。すぐに分かることであると思われるので、次回にでもごみ減量協議会の情報を提供してほしい。
- ・ **委員** これからのクリーンセンターには、設計・施工・運転管理というトータルのお金が必要になってくる。現在の施設は、安全安心を最優先としたため、構造的に非常に安全であるが、メンテナンスに対する考えが少し不足していたと思われる。ダイオキシン類対応工事時の見積など過去の資料をもう一度精査し、公表し、運転管理を含めての費用を検討する必要がある。

白煙については、非常にきれいな状態にある。白煙が出ていても問題ないことを市民にも分かりやすくしていかななくてはならない。

今までの施設が安全・安心にどれだけお金をかけているのか整理することで、メンテナンス管理などイニシャルコストとランニングコストの突き合わせをする必要があると思う。

- ・ **委員長** 初期投資で不可測な話が随分あり、そのあたりはこれからも非常に考えられる。
- ・ **事務局** 25年前施設を作った際には、臭い、音、振動を出さないことを重視してRC造とした。ただし、当時は耐用年数17年が厚生省の基準であり、それよりも数段よい施設を建設し、現在でももっている。しかし、今環境省が考えているのは、少なくとも清掃工場は30年もたせるということであり、新施設においても長期修繕計画に基づいて設計し、メンテナンススペースについても確保していく必要がある。

煙突の白煙について。当時の技術では、これだけの規模では発電できないということで蒸気の供給のみを行っており、2炉で回した場合には蒸気に一部余剰が発生し、それを煙突に入れることにより、白煙が出ないという状況になっている。発電を行っているところでは、気温5℃以上、湿度50%以下の場合には白煙が見えないが、蒸気を発電に送り、蒸気が不足した場合には白煙が発生する。操業基準と発電効率は裏返しの関係になっており、その議論は今回の委員会においても非常に重要なテーマになると考えられる。

- ・ **委員** 公害防止については、昭和50年あたりから徐々に改善がなされ、ダイオキシンについても平成9年ぐらいに大きくクローズアップされ、炉や集じん器の改修により生成を抑制している。公害防止面では良くなっているが、新たに地球温暖化対策というのが現在の大きな問題であると考えている。白煙防止として、下がった排ガスの温度を再加熱により上げるという方法がある。杉並区の高井戸工場では、冬はかなり白煙がもくもくとしているが、地域の方にはそんなに評判が悪くない。また、国としてもごみを燃やして発生する余熱を利用して、高効率の発電を目指すべきという方向になっており、高効率の発電効率を維持できれば、より多くの補助金を受け取ることのできる制度になっている。白煙防止装置を入れると発電効率が落ちるため、国としてはなるべく白煙防止装置をつけないよう指示している。いくつかの自治体では、そういった建設をし、住民からも好評であったとのことであるが、都心部ではもっと調整事項が多いと思われる。

私ども一組（二十三区清掃一部事務組合）のほうでも高効率発電の計画を策定するが、白煙防止を止めてもいいのではないかという意見はかなりある。一方で、直近にマンションがあり、白煙が太陽にかぶったときに揺らぎを感じて気分が悪くなるという話もあり、諸条件を加味しながら最終判断をしていきたいと考えている。

- ・ **委員** 我々は（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会のときに用地の選定において、非常に苦労した。従って、新しく造る施設は再度土地の移動を伴わないような施設を造っていくべきではないかと考えている。再度寿命がきた際に、施設の更新ができるような建屋を最初から計画に組み込んだものにならないかと考えている。建屋と機械のアンバランスが生じずに、また、場所を移さず機械の更新ができるような視点を付け加えていただきたい。
- ・ **事務局** そのあたりは十分議論いただく内容だと考えている。プラント側の視点ではなく、建築側の視点も必要だと考えている。一組版では、更新工事がなかなかうまくいかなかった。それは、体制・仕様が更新できるようになっていないからだと思っている。武蔵野市の現施設では、コンクリートに囲まれた空間の中で新しい炉とボイラーに更新するのは極めて難しい工事であり、さらにそれを稼働しながら実施するということで、無理と判断した。炉の更新周期は 35 年となっているが、それを交換してさらに延ばすことで建築と同じサイクルになるという設計思想を取り入れるかどうかは十分議論いただきたいと考えている。そのためにも、事務局として建物の梁のスパンを飛ばすことにより機械を入れる方法など検討し、提案していきたいと考えている。
- ・ **委員** 今度の新クリーンセンターは、ごみ発電が検討され、現在の機能とは変わり、積極的にエネルギーを作り出す施設となる。市役所や体育館も含めて、屋上緑化を行うなどクリーンエネルギーセンター化を検討するべきである。行政側から一般住宅へ太陽光パネルの補助金を出すと言う割には、公共施設には太陽光パネルがない。市の施設が率先して実施し、供給センターとしてクリーンセンターが機能してもよいと考える。

また、平成 29 年度までの 5,000t 減が大前提であるならば、その見通しが確かであるという裏付けを提示して頂くことが議論の入り口として重要であると考えている。
- ・ **委員長** クリーンセンターから供給していくというのは非常に大きなストーリーとして今後議論していくが、現段階では施設に限って話を進めていきたい。
- ・ **委員** 例えば安全性を重視すると経済性が損なわれる、環境基準を厳しくすればコスト高になるように、入り口論としてどのあたりに設定するかがないと、いずれ矛盾が生じてきてしまう。安定性を重視してストーカ炉を前提としているが、武蔵野市としてチャレンジ精神旺盛に進めていこうというコンセプトがあれば、他の選択肢も出てくるのではないか。安全性、チャレンジ、経済性、何を重視するのかを整理しないと議論に至らないのではないか。
- ・ **委員長** おっしゃられるようなことをどう議論するかがこの市民会議であり、今後かなりこういった話は発生してくる。この資料できれいに並べられている項目のなかにいる

いろな分かれ道があると感じている。

- ・ **委員** 「適正なコストコントロールによる確実な運転管理計画」について、現施設は荏原エンジニアリングサービスが委託運転をしており、市の関わり方が間接的である。この方式については、現施設建設当時はかなり抵抗があった。PFI・公設公営・民設民営、方法はいろいろあるが、コストと住民の安心感のバランスで、この厳しい財政状況もあり住民の安心感がどこかにいってしまっているのではないかと心配している。現在は、荏原エンジニアリングサービスと密接に話し合いをしているようであるが、全国的に行政から手が離れ、全部民営で運転している事例があればおうかがいしたい。
- ・ **委員長** コスト問題については、どのような議論を重ねていけばバランスの話に辿り着くのか気になっている。
- ・ **副委員長** 先ほど委員長が、この委員会は饅頭の餡だとおっしゃられたが、餡のみを食べることはできないし、皿の上にも乗り、いつ、だれが食べるかなどトータルを含めて饅頭になっている。この委員会においても周辺整備協議会・ごみ減量協議会が専門的に分業していくことはすごくきれいに整理されているが、専門的な側面だけでなく、分業がよりも協業が重要だと考える。分業が分断にならないことが委員会での最大の留意事項であると考えます。

白煙の話など専門的な議論に入っていくのはなかなか難しく、勉強しながらやれることである。委員会・協議会の両方に溶け込む施設と記載があるが、一番目指すべきところであり、そこに向けた中身を専門家じゃない人も分かる形で出していただき、素人の意見を出しながら進めていきたい。あちらの会で決まったから動かせないとかならないよう情報交換が必要である。

- ・ **委員長** ここでは餡を議論せざるを得ないが、餡を議論するには皮との関連も見なくてはならない。副委員長と同じ考え方である。
- ・ **委員** ごみを 5,000t 減量するための工程表をある程度提示し、目標値を着々と高めていかないと、我々の議論は着地点に到達しないと考える。また、5,000t 減量した際のごみ質はどうなっているのか。それに耐えられる炉を検討しなくてはならない。そのためにも工程表を出していただき、我々が議論を進めて大丈夫だという先行きが見えないと空しい議論になる。減量協議会には多大な期待を寄せてしまうが、本当にこなしていただけなのか危惧している。
- ・ **市委員** ごみ減量について、20 年度～29 年度まで 1 年ごとに実施計画を作っており、実施計画どおりに減量している。さらに実行していくためには、ごみ減量協議会だけでなく、市民の皆さんに訴えていくしかない。また、余り言いたくはないが、制度的に減らす方法もある。現在、20 円/kg で事業系ごみを処理しているが、多摩地域で最も安い価格となっており、本来リサイクル工場に回るべきものが、武蔵野に入ってきている。これらのごみに対して、20 円と他自治体を同様に 35 円とか 40 円としてしまえば、黙っていてもごみが減量することは分かっているが、地域経済状況などと考えると、断念し

ようという状況にある。この 35,000t というごみには、本来はリサイクルに回るべきごみが燃えているという状況がある。今のところ、そこまで検討せずとも減量は達成できているが、毎年進捗状況を減量協議会の皆さんにも管理していただき、翌年度の施策を見ていただき、その状況をこちらの委員会にも報告する。

生ごみをリサイクルしたり、剪定枝を全量資源化し現施設では一切燃やさないことなどにより、5,000t の減量を計画している。

- ・ **事務局** 先ほどの話にあった総合的な電力供給センターについては、我々でも検討していきたいと考えている。蒸気の代わりに電気を送り、また発電効率を高めていくということを検討できればと思っている。市役所にも太陽光パネルは付いているが、そういったものを全部集約する、ごみ発電を実施するなどトータルで議論いただければと思っている。

ごみ減量については、厳しい話を頂戴したと考えている。次回の検討内容が、「ごみ量・ごみ質」であるため、事務局としても作戦を練り、皆さんが納得できる形を継続的に求めていきたい。

また、経済性・安全性のバランスを求めるのは当然のことであると考えている。委員から話のあった事業手法は、もう少し先で議論させていただければと思っている。市役所は単年度主義であり、単年度で予算を投入してきたために長期修繕計画みたいなものはなく、予防保全的に相当お金をかけているが、その検証を行う必要がある。PFI 方式においては、長期的に運営を任せることにより、メーカー側で修繕計画を回していくというのが責務になり、チェックもできるということになる。ただ、これまで公設公営でやってきた安心感もあるため、メリット・デメリットを明確に提示し、後半で議論いただきたいと考えている。そのために資料を先に提出したり、勉強会を開くなどしてもよいと考えている。

副委員長の饅頭論については、委員会と協議会がきちんと饅頭になる方法論を考えなくてはならない。また、委員会・協議会・市の推進本部の3つをうまく回せるよう進めていきたいと考えている。

- ・ **委員長** PFI 論というのは、論理的な帰結ではなく「腹の括り方」が重要であると考えている。少し早めに本当に腹を括れるのかという意味の検討が大切だと考えている。諸条件を全てそろえ、一つの経営論として早めの議論が必要なのかも知れない。
- ・ **委員** PFI の場合、ファイナンスに重きを置くかオペレーションに重きを置くかで全く異なる。専門的なところは専門家に任せればよいが、この場ではどちらを重視するのかということを議論すべきであるとする。
- ・ **委員長** 決心のようなものが必要であり、またおもしろい点であると思うので、少し議論を早めてもいいかなと感じている。
- ・ **市委員** 先ほど委員から太陽光パネルが公共施設には少ないというお話が出たが、少し宣伝させていただきたい。武蔵野市では、小学校は全て設置を完了している。22 年度

から中学校に設置をはじめ、小中学校が完了次第その他の公共施設についても設置の調査を行い、全体的な計画の中で設置を検討していく。

1 つのいい例として、吉祥寺南町のコミュニティ協議会では、行政を当てにせず自ら寄付を集め設置するという動きがある。行政も早期に設置しなくてはということで、周りの自治体と比較しても武蔵野市の太陽光発電は進んでいる。

- ・ **委員** 四中もクリーンセンターでカバーする地域に含めて、クリーン電力センターとしてできないかと考えている中で、四中に付いていなかったことから、武蔵野市では太陽光パネルが進んでいないのではと感じた。
- ・ **市委員** 中学校は、22 年度は 1 校を予定しており、境の六中に最初に付けようと考えている。
- ・ **委員** 市民公園の時計の上の街路灯、時計など公園にも太陽光発電の街路灯が数多くある。
- ・ **委員** 委員長が技術をとるのか、安全・安心を取るのか岐路にあるとおっしゃられた。安心・安全と技術を両立させるものがストーカということであるが、既存のものと代替した場合、どのくらいの価格帯を想定しているのか。
- ・ **事務局** 前段で焼却施設や不燃・粗大のスペックが決まれば一定の概算費等が算出できると考えている。一般的には、焼却の場合 5000 万円 / t と言われ、120t であれば、60 億というのが概算値であるが、経済情勢の悪化もあり、非常に安くなっている。余談ではあるが、三鷹、調布のふじみ衛生組合には 288t の炉を 20 年の運転管理を含めて委託しており、288t から生じる電力は事業者側がもらえるということで、半値ぐらいに値段が下がったということがあった。金額的には相当落ちてきていると考えるが、焼却施設が 60 億、不燃・粗大が 10 トンと想定し 10 億、両方合わせて 70 億ぐらいをざっくりとした概算として考えている。
- ・ **委員** 排出エネルギーを企業に売却するという事は、今後も想定しているのか。
- ・ **事務局** 先日の田中勝先生のフォーラムにおいて、先生は発電効率を求めるとすればとにかく広域化し、スウェーデンで行われているような何千トンという焼却施設を作り、30%、40%といった発電所並の発電効率を求める方法が考えられる。武蔵野市の場合、120t という軽自動車のエンジンで回すため、どこまで発電効率を追求できるかというのが今後の課題であり、極端な発電効率、売電という考え方はちょっと難しいのではと考えている。ただし、総合供給センターのように公共施設が集約しているところで、効率のいい場所にエネルギーを送るのが最も効率的であると考えている。300 トンや 600 トンあれば、かなりの発電が見込まれるが 120t の場合には、いささか過大になるため、今後そのあたりの数字も提示していけたらと考えている。
- ・ **委員** いろんな議論がある中で 2 点お願いがある。市民が協働してごみを減らしていくという中で、武蔵野市には「クリーン武蔵野を推進する会」など数多くの団体が存在している。それぞれの団体がどのような活動をし、どう連携しているのか、市から補助を

受けているのか我々素人には分からない。そのため、どういう団体がどのようにごみ減量に取り組んでいるのか、勉強会もしくは作業部会において教えていただきたい。

2点目として、私は今委員になっているが、機械のことは全く分からない。行政の方で、市民を委員に入れたからこれが錦の御旗になるということを使うつもりはない。裁判員制度のように、非常に優しい言葉で皆が分かるような説明をし、知らない人でも判断できるようにしていただきたい。そのためにも一つは英語、横文字を使う場合などに、分かりやすい資料、説明の仕方、運営方法を検討いただきたい。

- ・ **委員長** その点は、どんどん指摘いただき、言いにくい話かと思うが差し挟んでいただきたい。
- ・ **委員** 今の意見に同意する。減量協議会、施設・周辺整備協議会など協議会が随分あると考えている。それぞれにおいて挙げた案件、提案についてフローチャートを示したものを、議題にするかどうかは別にしても我々に説明する必要がある。そうすることで、市民参加されていない市民に対しても我々がごみ減量などについて説明できる。水面下でも構わないので、資料の提供をいただきたい。
- ・ **委員長** 我々の不勉強もあるが、確かにいろんな動きが我々の見えないところである。資料提供を事務局にお願いしたい。
- ・ **事務局** 了解した。
- ・ **委員** 「委員会の基本コンセプト」として4つ挙げられているが、このコンセプトの中に前回の委員会における提言、市への説明で使ってきたコンセプトが全て入っていると受け取ってよいのか。
- ・ **事務局** おっしゃる通り。
- ・ **委員** それ以外に新しいものが入っている。また、括りが少しおかしいものがあるので、確認させていただきたい。コンセプトが4つある中で、については理解しているが、4つの中で第一のコンセプトは「市民協働による安全で安心な施設計画」である。これが無ければ、施設は成り立たない。この考え方でよいのか確認をいただきたい。正しいということであれば、もう少し強調した記載をしていただきたい。このが前提となり「環境にやさしい施設計画」、「まちに溶け込む次世代市民施設」という議論が成立する。一方で、におけるPFI事業計画について、市民の立場で何をやるのかよく分からないが、話を聞く中で自分たちが使用する中での要望を議論するためにを含めたという認識で良いか。
- ・ **事務局** おっしゃる通り。
- ・ **委員** では、に項目が3つあるが、事業を運営するうえでのコンセプトは1つめの項目だけではないかと思われる。2つめの「モニタリング方法についてマニュアル化を行う」は、施設の一部としてモニタリングシステムが入っており、無理にこの項目に加えているように思われる。3つめの「排出目標値（操業基準値）を設定し...」についても含まれる項目であり、に括っている理由が分からない。については、1つめの

項目である「PFI方式など民間活力手法により検討する」とあるように事業を運営する上での市民の要求を提言するという一方で、アウトプットをだすということではないか。

- ・ **委員長** 2つめの項目は、どちらかというと に該当するかと思うが、事務局はどのように考えるか。
- ・ **事務局** 今まで説明した通り、基本的な提言から市の基本的な考え方、委員会のコンセプトを導き出している。このコンセプトは、まず事務局が出したものであり、委員会として修正、追加すべき点があれば十分ご意見をいただきたい。佐々木委員がおっしゃられた が一番大きな要素であるというのは間違いないので、並列に並んでよいかについては検討したい。また、 について今までのまちづくり検討委員会から提案のあったPDCAサイクルなどは該当するのではないかとこの括りとしたが、異なるということであれば に括ることも検討したい。また、文言などの指摘もあれば修正する。
- ・ **委員** 直営の方ができる限り操業に責任を持つような立場で、SPC が加わるなどやり方はいろいろとあり、要するに市民の声業者を通さずに直接伝わるようなやり方でモニタリングができるとよい。そういう意味で、 に表現を変えて二重に入るのもよいかと思う。
- ・ **委員長** PFIを取るか取らないかは大きな転換、腹の括り方でもあり、今後いろいろ議論が出てくると思われる。
- ・ **委員** 先ほどの意見で、次回の建て直しを不要とするような恒常的な建物を効率性、安全性を含めた形で実現することに重点をというものについて、反論をしたい。私の住む緑町3丁目には、同じ町内にクリーンセンターがあることについて不快感を持っていらっしゃる方が少なからずおり、そういう方々にとって、建て直しを不要とすることは、今後60年間、子供たち、孫たちの世代までクリーンセンターが存在することになる。一方で、この地域にクリーンセンターがあっただけよかったという意見も住民の方から聞く。確かに無いほうがよいが、あったならば、同じ周辺住民として誇れる、地球環境の保護の観点などにつながるプライドを持てる施設を、先進国の情報や、北海道など土地が数多くあるところでの施設のあり方なども踏まえて議論していけたらと考えている。
- ・ **委員長** 先ほどの発言は、ずっとここに居続けてという話ではないと考えている。周辺の条件により、住民の方々に誇れるような施設になるかどうか、今回は1つの試金石になると考えている。
- ・ **委員** 商売が農業であるため、野菜の処理には非常に興味がある。今後そのあたりを検討していければと考えている。
- ・ **委員長** そういった話が今後出てくると非常に面白い話になると考えている。
- ・ **委員** 事業者代表でありやり玉に挙げられることもあるが、私も素人であるためもっと簡単に考えていきたい。ごみ量ごみ質の議論、現状把握のためにも一度ごみ減量協議会と協議する必要があると考えている。方法は分からないが、処理方法については、法律

上最低限のものを作ればよいのではないかと考え、外観などは、周辺協議会でと単純に考えていたので、これまでの議論を啞然として聞いていた。

- ・ **委員長** 事業系の課題を一人で背負っていただいているようで、申し訳ないと思っている。
- ・ **委員** 事業系ごみでも大規模商業施設については、生ごみを現施設に持ち込まないようになっており、今後中小の事業者においても実施することで減量していくと考えている。
- ・ **委員** 先ほどの用地の話は非常に理解できる。施設まちづくり検討委員会で選定に非常に苦労したため、今回は固定できるようにという話があったが、現施設の運営協議会の操業協定書においては、次は東側に作るという趣旨の文言を入れるよう行政から要望があった。その際に、次の建て替えの際にその話は考えるという方法にしようということになった。建て替え用地を最初から決めるのは止めて欲しいという考えに端を発しており、この策定委員会においても用地をこのまま固定するというのは心配である。協議会、もしくはその延長線上で、操業協定書を検討し、周辺の皆さんと合意するという方法でないと、最終的な反発が予想される。きちんとした管理をしていれば問題はないが、立川市のように協定を守れず、出て行けというような状況にならないとも限らないので、この委員会では柔軟に対応できるようにしておくのがよいと考える。

また、現施設では荏原エンジニアリングサービスに運転の委託をしているが、市の方でも運転をきちんと監視して、うまく成立している。これが万が一、PFIになった時に市が直接の関与から外れると管理面では心配なことがあり、この委員会でモニタリングや排出目標値について議論することは重要であると考えている。全市的なモニタリングをできる形にするかどうかも含めてここで議論をしておくべきだと考えている。

- ・ **委員** 私も同様の考えである。 の2, 3番目の項目の記載によると、市が直接関与しないのではないかと危惧する。要するに、市の管理が市民の声が直接届くような運転環境、PFI方式にしていきたい。市としても当然そのあたりは理解していると思うので、改めてお願いしたい。
- ・ **委員** 時々裏切られてきた経験もあり、心配がある。
- ・ **委員** 先ほどの私の発言に誤解があるようなので、もう一度申し上げたい。永遠にこの場所に施設を居座らせるということではない。現施設は、建物と機械の耐用年数にアンバランスがありながら、更新ができずやむを得ず場所を移動し、建て替えをすることになった。そういうことにならぬよう、建物の寿命と機械の寿命、機械のメンテナンスについてよく考えるべきではないかということである。
- ・ **委員長** 専門家委員としては、こうした非常に技術的な話を市民会議で議論する上で、かなり難しい話をどのように翻訳し、委員に伝えていくのか、何か提案はないか。
- ・ **委員** 私も3つの工場計画を策定し、アセスの説明会などについても実施してきた。資料についても横文字を並べてしまうと、何か反論しがたい雰囲気になってしまう。そのためにも本質的で易しい内容で説明することを心がけることが重要であると考えてい

る。今回委員として参加させていただいており、様々な技術的経験を含めてできるだけ易しく説明するよう考えている。

- ・ **委員長** 一度現場で、皆さんも分かるよう改めて説明をいただきたい。できる限り我々の言葉でしゃべれるような会議にしていきたい。

2. 作業部会の設置について

- ・ **事務局** 「作業部会の設置」ということで、この委員会は非常に技術的な問題を扱うため、作業部会もしくは勉強会を随時行っていきたい。委員会の前に一度作業部会において論点を確認し、委員会に臨んでいただくという方式を取っていきたい。作業部会は1つのみとし、出席者は原則出席可能な委員とするが、委員長、副委員長、専門家委員については適宜参加という形で考えている。座長は、前回の勉強会と同様に全都清の荒井部長にお願いし、技術的な解説をいただきたいと考えている。日程は委員会の前に実施し、市が責任を持ち、市の責任者は和地課長補佐が担当する。他に全都清の林田課長、日建設計高津さんの三者で資料づくりや説明支援を行っていく。
- ・ **委員長** 2は「当日出席可能な委員とする」でよいのではないか。
- ・ **事務局** 了解した。
- ・ **委員長** 話す言葉はこの作業部会から易しいものにしていただきたい。
- ・ **事務局** 了解した。
- ・ **委員** 作業部会はよいことであるが、今日のように当日資料をいただくと夜に読む時間がない。少なくとも前日か前々日ぐらいには配布していただきたい。難しいかと思うが、できる限り努力していただきたい。
- ・ **委員長** 事務局としては非常に難しいことは重々承知しているが、できれば事前の配布をお願いしたい。
- ・ **事務局** 今後はこの作業部会の資料が原則委員会の資料とするよう考えている。ただし、本日に限っては委員会の進め方という悩ましいものがあり、事務局としても考え抜いた末に当日になってしまった。この点については、お詫び申し上げたい。
- ・ **委員長** 大上段に振りかぶられたことが、いいことだと思っている。なかなかこのままではいかないだろうと思っており、楽しみにもしている。コンセプトについては、もう少し単純明快に書くべきところとさらに具体的に書かなくてはならないことも多いかと思う。今後の議論を楽しみにさせていただき、本日は終わりにしたいと思う。
- ・ **副委員長** 技術論は、一生勉強していかなくてはならないと考えている。2つの大きな委員会として、施設・周辺整備協議会の方が、こちらで進める技術論を抜きにしている分、フラストレーションが溜まるのではないかと心配している。ただし我々としては、5,000tのごみ減量をごみ減量協議会だけに任せるのではなく、委員会の方でも議論していきたいと考えている。
- ・ **委員長** お菓子で言えば、餡を舐めているような立場かも知れない。

3. その他

- ・ **委員長** 本日は傍聴の方もいらっしゃるので、後ほど一言だけでも意見があれば頂戴したいと考えている。
- ・ **事務局** 日程の件であるが、4月8日(木)19時より作業部会を予定している。4月22日(木)18時半より第二回委員会、5月6日(木)19時から作業部会、5月13日(木)18時半から第三回委員会までは日程が決定している。
- ・ **委員** 全て木曜日というのはなぜか。
- ・ **事務局** 日程の都合であり、合わせたつもりはない。
- ・ **委員** 木曜日は都合が悪い。
- ・ **事務局** できる限りご調整いただきたい。申し訳ない。
- ・ **事務局** それ以降のスケジュールについては、本日配布した紙に を記入のうえ提出いただき、調整をさせていただく。次回は、本日多くの宿題を頂戴した中で、「ごみ処理の現状把握」ということで、ごみ量・ごみ質をテーマとして本日の宿題も組み込みながら議論を進めたい。例えば、コスト部分の入り口、方向性について少し触れることなどについて、事務局内で検討したい。大きなテーマとしては、ごみ量・ごみ質となるが、ごみの団体、市の施策などについても資料を出せるよう進めていきたい。
- ・ **委員** 第一回勉強会に出席しなかったが、勉強会というのは継続的なものなのか。
- ・ **事務局** 基本的に委員会でいきなりの議論は難しいので、作業部会において一度ご説明し、論点を確認していただきたいと考えている。(勉強会のほうとの指摘)勉強会については、きちんと整理がついていないため、回答は保留させていただきたい。
- ・ **事務局** 前回は、焼却施設、白煙防止、有害除去装置などについて話をさせていただいたが、やり出すときりがなくいろいろなテーマがある。例えば、発電のみでも1回の勉強会を開催することができてしまう。そのために、作業部会とは別に勉強会を開催できたらと思い、スケジュールに組み込んでいる。ただし、作業部会、委員会、勉強会を開催すると月3回となり、負担になってしまうと考えている。勉強会については、状況を見て組み込んでいきたいと考えている。原則としては、作業部会と委員会の月2回とする方向で考えている。
- ・ **委員長** 勉強会は、視察なども含めて必要な時に随時実施する形としたい。
- ・ **委員** 視察に相当する回数ということであれば、納得した。
- ・ **委員長** そのような認識でよいと考える。ただ、専門家の委員もいらっしゃることであり、具体的に実物を見ながら話す機会は設けたいと考えている。今日は様々な議論を行ったが、進め方や方法論に関する話題も多く、即回答とは考えず、プログラムやスケジュール全体を見直す形で考慮いただければと思う。

閉会